

ecore<sup>™</sup> | Commercial  
Flooring



## FOREST RX ROLLS

### 標準施工・メンテナンス手順書

Distributed in the U.S.A. by:

ecore<sup>™</sup> | Commercial  
Flooring



高橋産業株式会社

〒650-0034 神戸市中央区京町 71 番地 山本ビル 7F TEL: 078-333-1561, FAX: 078-333-1565

### 設 置 工 事

#### I. 現場の状況

1. 敷設工事は、すべての材料の運搬が終わるまで始めてはいけません。 下地工事終了後は、敷設作業までの間、カバー等で養生してください。
2. 敷設作業場の最適温度条件は、18℃前後。その他の条件下では、作業手順が異なる場合があります。
3. 製品に万一不具合がある場合は、速やかに弊社へご連絡下さい。施工前に製品をご確認頂きますようお願い致します。施工後の製品不良については対応出来かねます。

#### II. 施工下地

Forest RX 製品は 通常、モルタル金ゴテ仕上げの下地上に敷設します。

注意：石膏を主原料とする塗装やレベリング材の上は、施工できません。

1. 木質下地： 木質下地を使用する場合は、十分な硬さと最低 25mm厚の 2重構造でなければなりません。継ぎ目には段差が起らないよう下地調整材にて平滑に仕上げてください。自由に動くエアコン通風口から45cm以上の間隔が必要です。
2. コンクリート下地の場合ー コンクリート床スラブは強度基準に従い、施工の最低 28 日前までに準備され、十分に乾燥していなければなりません。

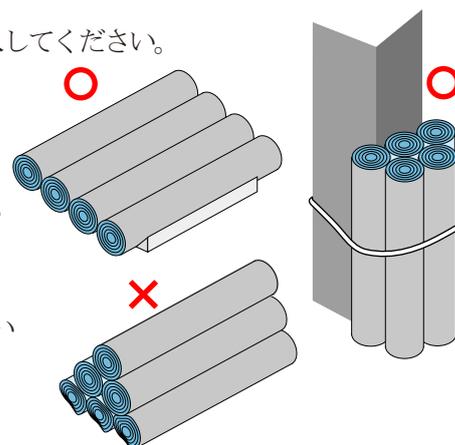
#### III. 施工下地の必要条件と準備

1. 施工下地は、乾燥し、きれいで、滑らか且つ水平な状態に仕上げなければなりません。モルタルかす、ホコリ、ペンキ、油類などが付着していないことを確認してください。
2. 施工下地は、平滑で不陸がないこと。通常、表面は、3mゲージで±5mm以内の不陸に仕上げてください。
3. 古い下地に残る接着剤等は、スクレイパーやサンディング等の作業で完全に除去してください。溶剤は、使用しないでください。
4. 下地の目地、ひび割れ、ギザギザ等がある場合は、補修用モルタルで手直ししてください。
5. 下地コンクリートから湿気の蒸散は、 $2.5\text{kg}/100\text{m}^2$ (24時間)を超えてはいけません。もし、基準を超えるような湿気が発生する場合は十分な対策を行ってください。
6. pH テストは、すべてのコンクリートフロアで実施するべきです。もし、pH 値が 9 以上であれば施工工事を始めるまでに中性化してください。

## 施 工 作 業

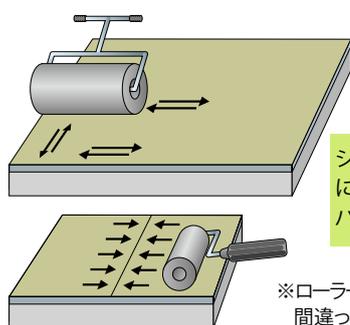
### IV. 材料の保管と取り扱い

1. すべての材料は、原型・未開封のラベルが張ってある状態で作業現場へ納入してください。
2. Forest RX 製品の保管は、清潔で乾燥した平滑な床に保管してください。積み重ねをしないようにしてください。
3. 材料と接着剤は、施工作业開始前の48時間以上、室温になじませて下さい。
4. すべての材料は施工前に欠損等がないか目視で確認してください。もし、異常が確認した場合はその部分を施工する場所には使用しないでください。



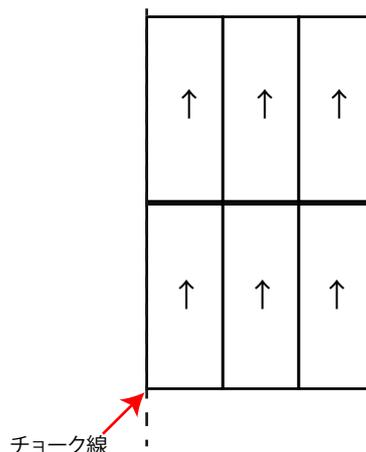
絶対に積み重ねはしないでください。  
シート材が変形し、施工の妨げになります。

5. Forest RX 製品のロールを巻き解き、一定方向に敷き詰めてください。(図1参照)
6. 各ロールの継目になるべく少なくなるようにロールを敷き詰め、隣り合うロールの端(ロールの継目部)の色調の濃淡やデザインパターンの違いが起きないように準備してください。壁に接するロールは、直線の金属定規を使用しカッターで切断してください。すべてのロールは、壁に十分達する長さが必要です。その際も表層の色やデザインパターンに継続性があるように注意してください。



(図2)

※ローラーがけの方向をよく確認して正しく施工してください。  
間違った方向にローラーがけをすると、壁際や目地部の  
圧着不良をおこし、床材の収縮の原因となります。  
図の方向にローラーを十分にかけることが大切です。



※ForestRX(木目調)は  
同じ方向にロール配置

チョーク線

(図1)

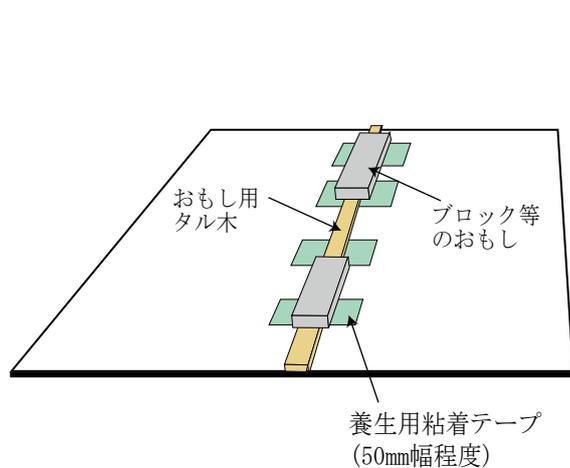
### V. Forest RX の施工

1. 先ず、施工場所の壁際両側を少し残し、ロール仮置きします。これは、施工場所の床に合わせて、微調整を両サイドで行います。チョーク線などで各ロールの敷設位置を決めます。(図1参照)
2. すべてのロールの梱包をほどき、各ロールのストレスを解放させます。次に、墨線に従い、適切な長さに切断されたロールを敷きつめます。
3. 製品に異常がある場合を除き、ロール両端のトリミングは必要ありません。縦方向のジョイントの最初のロールと次のロールを50mmオーバーラップさせて金属定規をあてて丁寧に重なり合うロールを切断してください。その際も表層の色やデザインパターンに継続性があるように注意してください。
4. 最初のロール①をチョーク線に合わせて敷設します。  
※最初のロール①のジョイント(継目)が完全に直線になる必要があります。
5. 次のロール②は、ロール①と色やパターンのつながりを確認してオーバーラップ後に切断してください。ジョイント(継目)部の押し込みは避けてください。(図2参照)  
過度の押し込みはジョイントの盛り上がりの原因となります。
6. ①→④の順で連続するロールを施工する際は、その日に準備されたものは完全に施工を完了させてください。

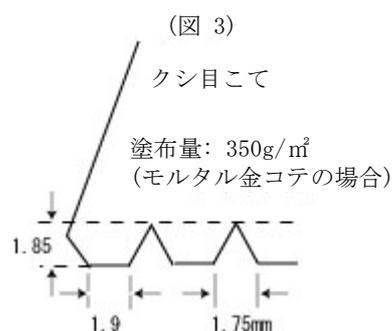
## VI. 接着施工

- a. 上の過程の仮設の後に、接着剤の準備を始めます。専用の1液性接着剤(VOC基準対応品)を推奨します。この接着剤は、湿気硬化型のポリウレタン接着剤です。攪拌しないで使用してください。専用の容器の中には、完全に処方された正しい状態にあり、すぐに使用することができます。また、塗布量は、クシ目コテ(図3)にて、約 $350\text{g}/\text{m}^2$ (モルタル面)を使用してください。(オープンタイム: 夏期: 10~20分; 冬場: 20~30分)
- b. 壁に沿って、最初に敷設するロールを折り曲げ、準備します。(ロールの半分の幅: 図4参照)
- c. 市販で使用するクシ目コテで接着剤を広げます。40分以内にロール敷設を完了してください。
- d. 接着剤の上にロールを敷設します。シートの下に空気が入らないように注意して作業してください。(図2参照)
- e. 最初のロールと幅方向に折り曲げられた次のロール半分の下に接着剤を広げます。接着剤が、ジョイント部から表面にはみ出さないように、クシ目コテで均一に広げてください。(図4参照)
- f. 次のロールも同様の手順で、シートの折り曲げ作業と適量の接着剤を均一に押し広げ、接着作業を行ってください。
- g. 張合せ直後にローラー(約 $5\text{kg}$ )等で十分に転圧をかけてください。(図2参照) シート下の空気溜りは転圧ローラーでジョイント部より抜き取ってください。1~2時間後に再度転圧してください。
- h. 敷設作業終了後、再度、十分に転圧を行ってください。必要に応じて、ジョイント部には、適当な間隔で $50\text{mm}$ 幅の養生用粘着テープを使用し隙間が開かないよう固定してください。次に重石(タル木とブロック)を置き、ジョイント部が浮き上がらないようにしてください。(図5参照)

注) 作業終了から最低48時間はシート上の使用することを避けてください。



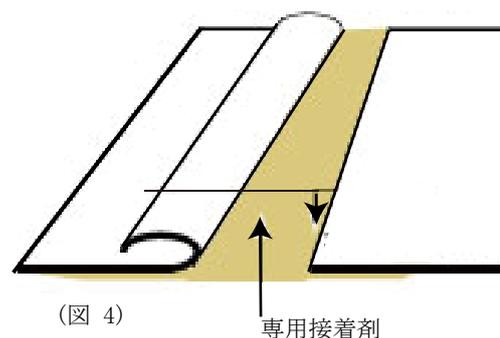
(図 5)



(図 3)

クシ目コテ

塗布量:  $350\text{g}/\text{m}^2$   
(モルタル金コテの場合)



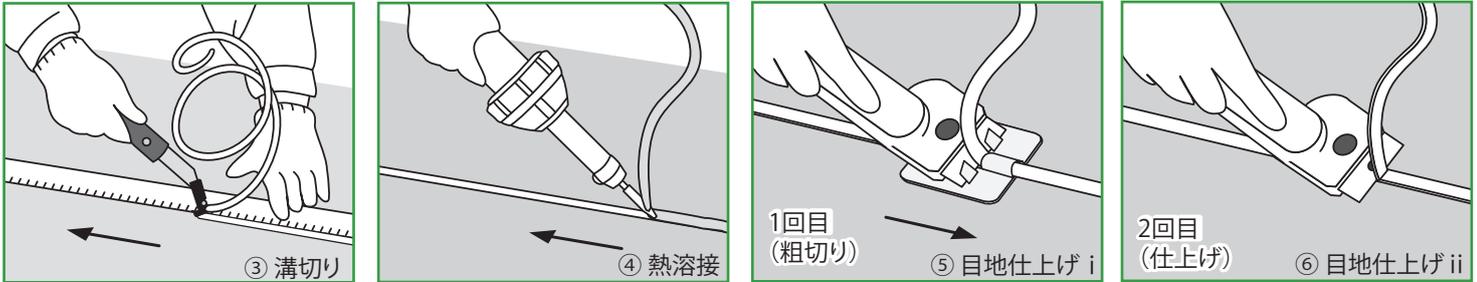
(図 4)

専用接着剤

### 継目処理 - 溶接棒-

1. 前養生- 接着剤が十分に硬化するまで(24時間以上)養生してから溶接作業を行ってください。
2. 溶接棒の用意- 事前に専用の溶接棒の長さを切って準備します。(溶接棒:直径 4mm)

継ぎ目を2～3mmあけて溶接すると十分な強度が得られないので、必ず溝切りを行います。



3. 溝切り- 溝切りカッターを使い、表層床材の厚さの2/3程度(1.3mm)をU地にカットします。この際、1/3が残っている必要があります。
4. 熱溶接- 溶接作業を開始する前に、溝切りした目地をよく清掃しておきます。専用の目地溶接棒をノズルに差し込み、底部が床面と水平になるように角度を保ち、溶接棒の頭部がつぶれる程度の力で溶接機を引きながら作業を行います。
5. 目地仕上げ- 溶接棒が冷えてから、床面に溶接済みの溶接棒に⑤のトリムガイドをあてがい、スパチュラナイフなどで2回に分けてカットします。一回目はトリムガイドにより粗切り(少し残る)します。二回目のカットで溶接棒を床面と同一の高さになるように丁寧に仕上げます。

## メンテナンス

### クリーニングの方法

1. 主要な日常のクリーニング
  - a. 汚れ、ほこり、砂、小石などは、ほうきやモップ、高性能掃除機などできれいに取り除いてください。
  - b. 中性洗剤(pH7～9)などを約20倍に薄めてから柔らかいナイロンブラシやパッドにつけて、清掃を行ってください。
  - c. 汚れは、水ごと液体吸引機で吸い取ってください。
  - d. 次に、きれいな水で汚れを取り除きながら同様に吸引機で吸い取ってください。
  - e. すすぎの水がきれいになるまで繰り返し行ってください。
  - f. 全体的によく乾燥させてください。(6～8時間)

**注意: 水浸しになるような状態で作業してはいけません。**
2. ひどい汚れ
  - a. 中性洗剤を10倍程度に薄めたものを使用し、1の日常クリーニング方法と同様に行ってください。

\* 中性洗剤の適正は、洗剤メーカーにご確認の上、ご使用ください。

### 3. ワクシング

弊社では、専用ワックス剤(Eフィニッシュ)もご用意しております。ご用命ください。